５．基本構想

５―１．基本構想のフロー

１．自然環境の把握と評価

- ■　台峯の谷戸部
  ：台峯緑地の多様な生物の生育環境の基となる水源地環境及び湿地景観を形成している
- ■谷戸の池周辺中央部
  ：多様な生物が生育し景観的にも台峯緑地のシンボルとなっている
- ■倉久保の谷戸部
  ：多様な生物の生育環境と里山的な谷戸景観を形成している
- ■清水谷戸部
  ：かつての農耕地が放置され荒地化している
- ■　台峯東側斜面緑地部
  ：古都鎌倉らしい景観を形成するし、防災的な役割も担う

↓

２．自然環境の保全・活用の課題

- ■植生群落毎の遷移・管理課題
  安定した自然林による樹林地の形成
  樹林地としての多様性・健全性の確保
  大径木の育成による動物種の育成環境基盤・多様性の確保
- ■水辺環境の特性と環境・空間構成課題
  様々な水域環境の保全による植物・動物種の多様性の確保
  貴重な植生群落の保全と育成
  動物種の生息地環境の保全と活用をバランスさせる
- ■草地、農耕地の管理・整備課題
  適切な群落への遷移による安定した樹林地の形成
  荒地化の防止、樹林地としての自然度の向上
  既存樹林を傷めない利用拠点、利便施設の整備

↓

３．保全と利用の方針

- ■自然環境の保全方針
  - □自然林、二次林、貴重な群落などからなる多様な樹林地構成を維持する
  - □湧水、水路、湿地、ため池など多様な水環境を維持する
  - □荒地、草地、農地などを適切な目標設定により誘導する
- ■市民利用のための活用方針
  - □線的な利用に限定して活用する
  - □散策路は既存のものを活用する
  - □活用のための利便施設、管理施設の導入は最小限に止める

↓

４．基本構想の作成

- ■ゾーニングの考え方
  自然地形のまとまりを基本とする
  樹林地の機能・群落構成の目標を考慮して仕分ける
  水環境の保全と活用をバランスさせて仕分ける
  - ・源流の森と里山の保全ゾーン
  - ・里山の保全ゾーン
  - ・里山再生ゾーン
  - ・景観緑地と里山の保全ゾーン
  - ・源流域の湿地保全エリア
  - ・里山の湿地保全エリア
  - ・里山の湿地再生エリア
  - ・水田・湿地再生エリア
- ■動線計画の考え方
  南北方向の動線は既存尾根道と谷戸の道を活用する
  東西方向の動線は斜面を上下する既存の道を活用する
  管理車両の動線は現況で進入可能な道までにとどめる
  - 尾根道ルート、谷戸の道のルート
  - 尾根から谷戸への道ルート
  - 管理車両動線
- ■施設導入計画の考え方
  台峯緑地の保全に必要な管理施設のみとする
  利便施設は必要最小限とする
  配置場所は耕作放棄地等を活用する
  - 台峯緑地管理棟、
  - 倉久保の谷戸管理棟
  - トイレ、備品収納
  - 休憩施設 など

↓

基本構想図

↓

維持管理方針

図５－１　基本構想のフロー図